



東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ

平成27年8月期決算・新中期事業計画説明会

平成27年10月14日

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



もくじ

第1部 平成27年8月期決算

I -1.	決算概要	4P
・	PL分析	4P
・	四半期業績の推移	5P
・	B/S分析	6P
・	CF分析	7P
I -2.	平成28年8月期の業績予想	8P

企業情報

・	会社概要	23P
・	会社沿革	24P

第2部 新中期事業計画

II -1.	事業概要	10P
II -2.	従来計画の総括	12P
II -3.	市場環境分析	14P
II -4.	新計画「Evolution2018」	16P
・	目標	16P
・	戦略	17P
・	M&A	18P
・	R&D	19P



決算概要

平成27年8月期
(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

PL分析

PL

	平成26年8月期		平成27年8月期		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	1,621	—	2,362	—	45.7
受注残高	163	—	443	—	170.4
売上高	1,585	100.0	2,124	100.0	34.0
売上原価	1,137	71.7	1,468	69.1	29.2
売上総利益	448	28.3	655	30.9	46.2
販売管理費	180	11.4	205	9.7	13.6
営業利益	267	16.9	450	21.2	68.3
経常利益	255	16.1	435	20.5	70.5
特別損益	50	3.2	14	0.7	△71.9
当期純利益	302	19.1	559	26.3	85.0
EPS (円)	57.80	—	106.32	—	83.9
EBITDA	373	23.5	565	26.6	51.7

Point

①受注状況

- 半導体分野：1,236百万円
(対前年同期：60.8%増)
- FPD分野：757百万円
(対前年同期：86.2%増)
- その他分野：368百万円
(対前年同期：17.3%減)

②売上高

- 対前年同期34.0%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

- 材料費：110百万円増
(対前年同期：39.4%増)
- 労務費：93百万円増
(対前年同期：25.7%増)
- 外注加工費：79百万円増
(対前年同期：29.5%増)

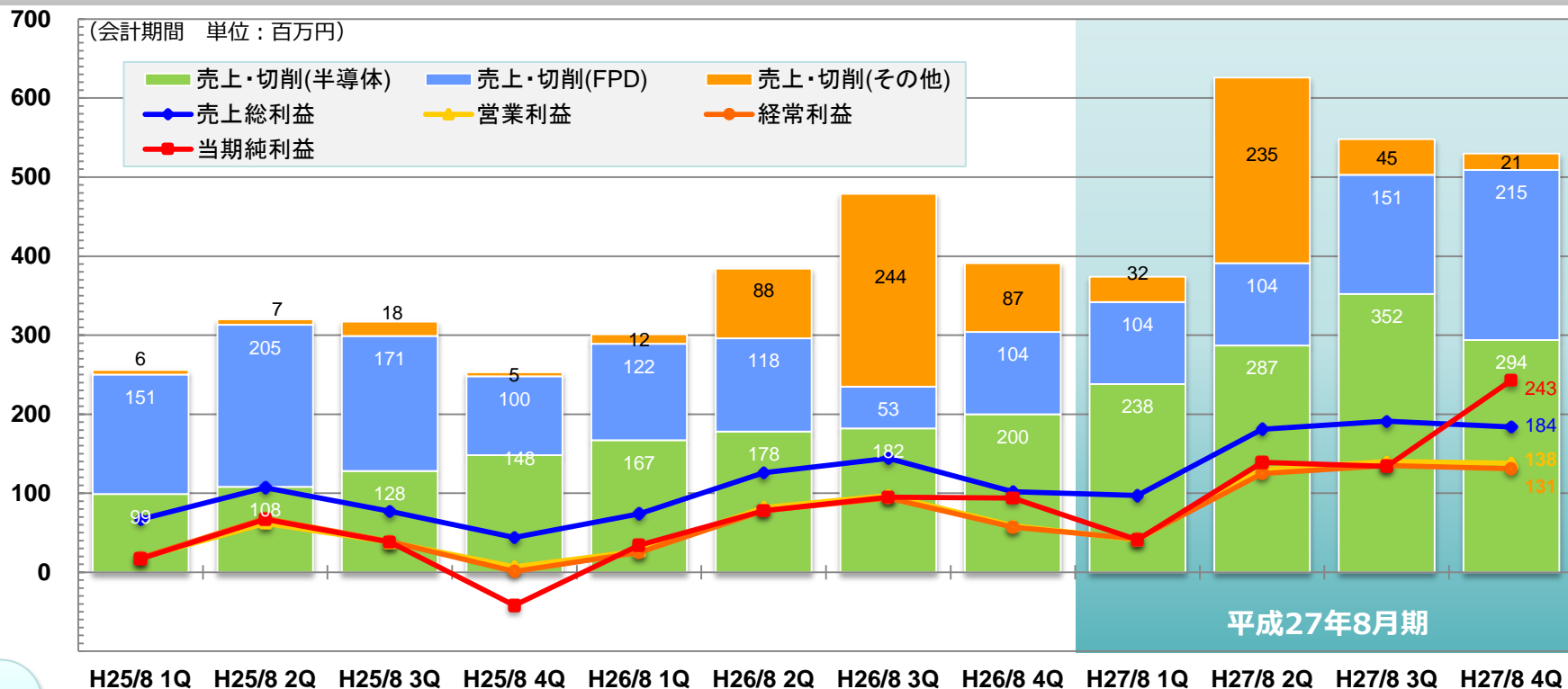
④営業利益

- 販管費は人件費の増加

⑤営業外費用・特別利益

- 支払利息：21百万円
- 補助金：15百万円

四半期業績の推移



Point

①売上高は、半導体分野がけん引（数値は累計期間）

- 半導体分野：1,172百万円（対前年同期：60.9%増）
 - ・市場環境が好調にくわえ、顧客内におけるシェア拡大と生産体制の強化で好調に推移
- FPD分野：575百万円（対前年同期：44.4%増）
 - ・前半受注低迷も後半は需要拡大に伴い回復

■その他分野：335百万円（対前年同期：22.5%減）

- ・新型スマートフォンに関連した製造装置部品及びユニットのリピー特受注が続くなど好調を維持

②損益面では売上高の増加と生産性向上で順調

- ・売上高増加と生産性向上により営業利益は前年を大きく上回る

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

B/S分析

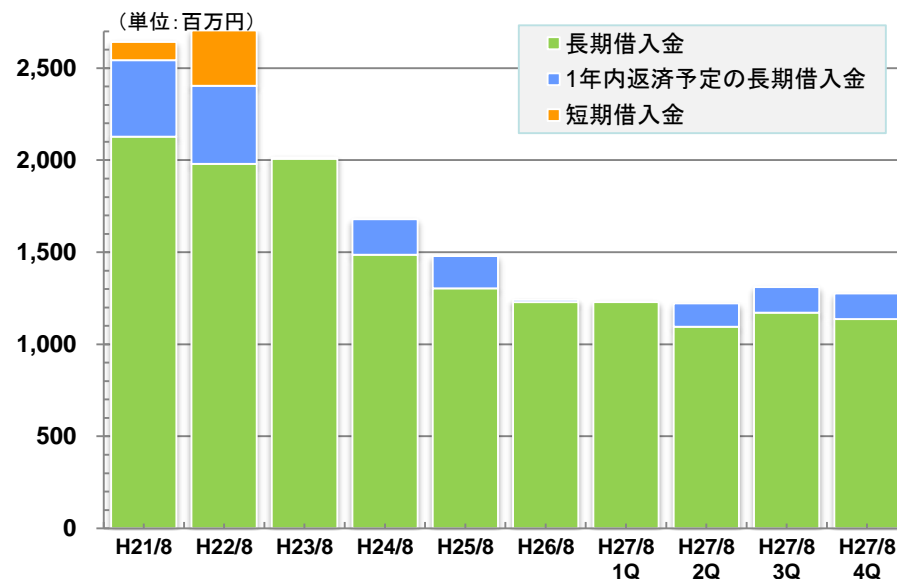
B/S

(単位：百万円)	平成26年8月期 会計年度末	平成27年8月期 会計年度末
流動資産	906	1,234
現金及び預金	162	397
売上債権 (受取手形・売掛金電子記録債権)	648	574
たな卸資産	85	165
固定資産	859	954
建物・土地	570	605
機械及び装置	265	271
流動負債	138	333
有利子負債（短期）※	12	138
固定負債	1,231	1,140
長期借入金	1,229	1,137
負債合計	1,369	1,473
純資産合計	396	715
総資産	1,765	2,188

※ 有利子負債（短期）：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

Point

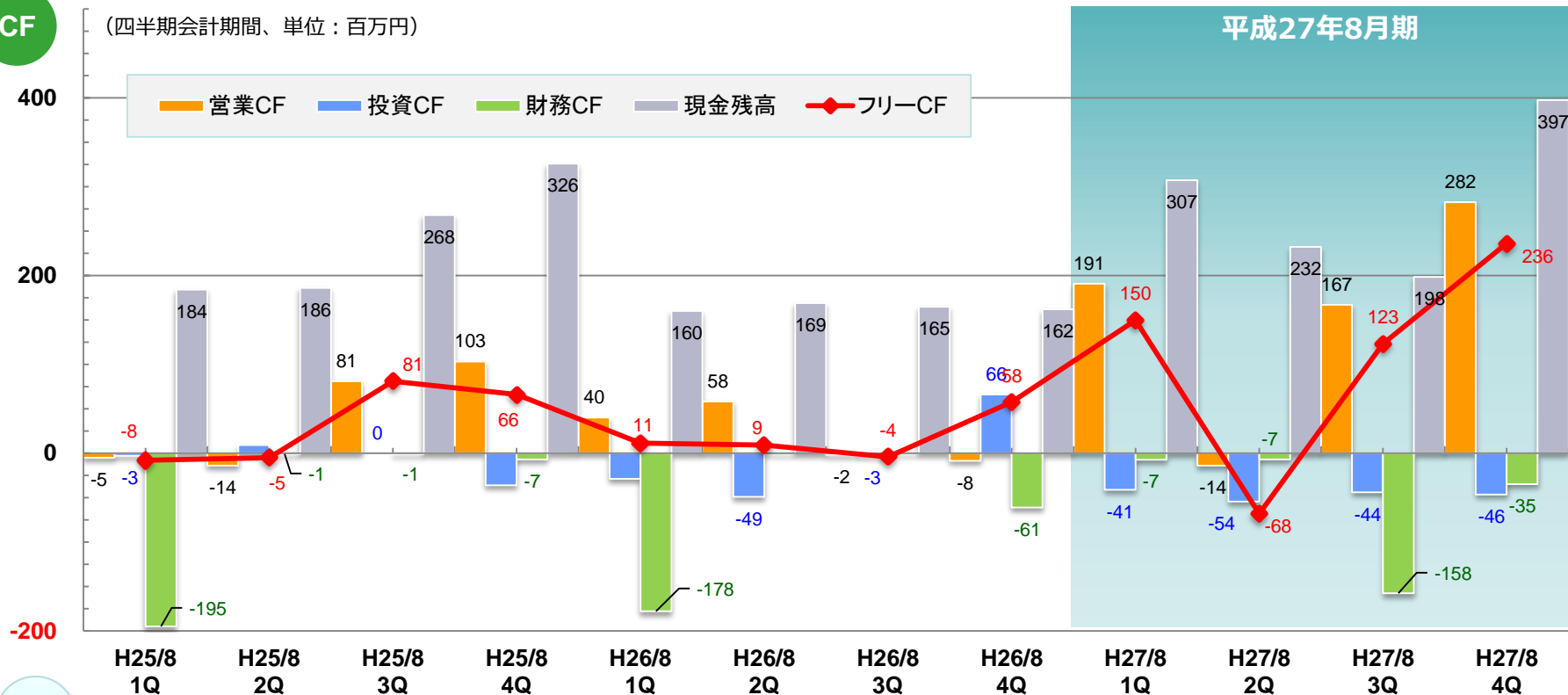
- ① **資産：2,188百万円(前期末比:423百万円増加)**
 - 現金及び預金：234百万円増加
 - 売上債権の減少：74百万円減少
 - たな卸資産の増加：79百万円増加
 - 有形固定資産の増加：67百万円増加
 - 繰延税金資産の増加：112百万円増加
(流動資産と固定資産の合算)
- ② **負債：1,473百万円(前期末比:103百万円増加)**
 - 有利子負債：34百万円増加
- ③ **純資産：715百万円(前期末比:319百万円増加)**
 - 利益剰余金：419百万円増加
 - 自己資本比率：32.7%



CF分析

CF

(四半期会計期間、単位：百万円)



Point

① 営業活動によるCF (当期累計) : 626百万円

- 税引前当期純利益 : 449百万円
- 減価償却費 : 115百万円
- 売上債権の減少による資金の増加 : 74百万円
- 仕入債務の増加による資金の増加 : 43百万円
- たな卸資産の増加による資金の減少 : 79百万円

② 投資活動によるCF (当期累計) : ▲185百万円

- 有形固定資産の取得による支出 : 180百万円

③ 財務活動によるCF (当期累計) : ▲206百万円

- 長期借入れによる収入 : 1,349百万円
- 長期借入金の返済による支出 : 1,315百万円
- 自己株式の取得による支出 : 246百万円

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

I-2.平成28年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

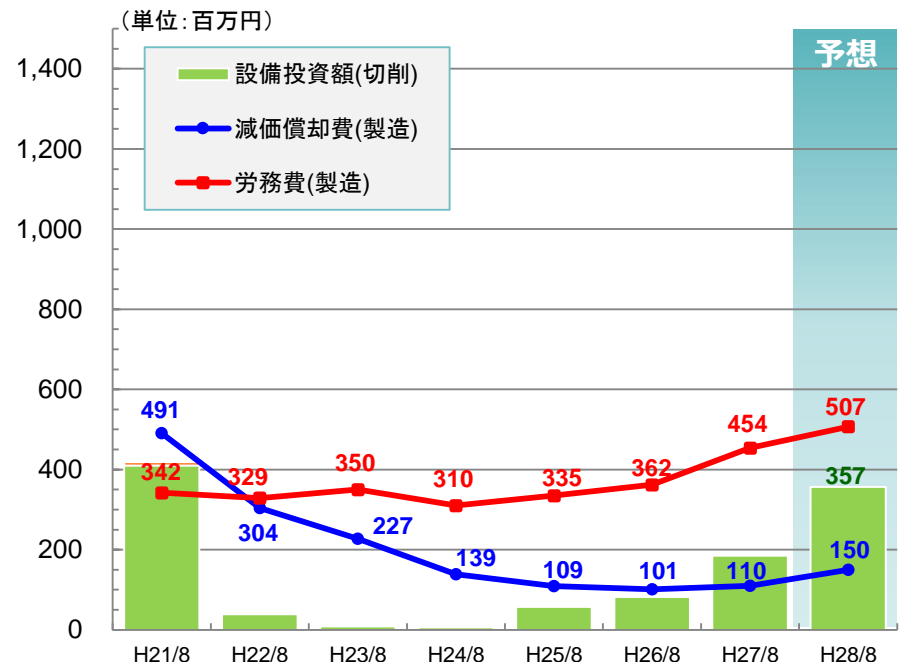
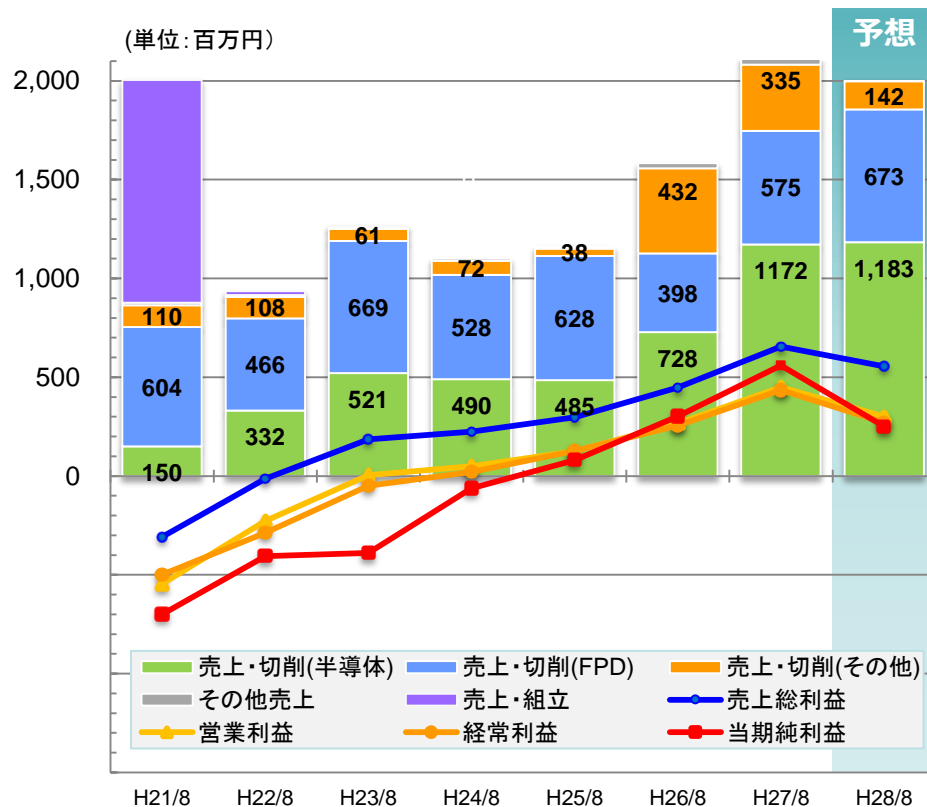
業績
予想

(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

平成28年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
第2四半期(累計)	1,000	150	135	150	28.47
通期	2,000	300	270	250	47.46

Point

- ✓ 半導体分野は微細化で市場回復見通し
- ✓ FPD分野は市場高水準も中国関連に不透明
- ✓ その他分野は先読み困難
- ✓ FPD分野・その他分野は保守的に予算化
- ✓ 市場変動大きく、売上高と費用共に保守的





Evolution 2018

新中期事業計画
平成28年8月期～平成30年8月期

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

- エッチング
- CVD
- コータ/デベロッパ
- スパッタ
- 枚葉洗浄
- アッシング
- ウエハーボンディング
- イオン注入
- アニール

主要製品

- 真空チャンバー
- シャワーヘッド
- 排気板
- 静電チャック
- ヒーター類
- 上部電極
- ターゲット
- 搬送系パーツ類
- 各種真空パーツ類

※画像はイメージです

Ⅱ-1. 事業概要

事業成長と成長ドライバー（技術力をベースに変化し、成長を継続）

(単位: 億円)

売上高

- 組立
- その他
- 太陽電池
- FPD
- 半導体

H14/3 (決算期) H15 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27

決算期変更

リーマンショック

マザーズ上場

事業再生ADR手続

事業再生計画終結

規模拡大時期

再構築

再成長

技術力醸成期

設備大型化
生産力拡大
組立事業

FPD
太陽電池

大型設備整理
生産力再配分
真空パーツ強化

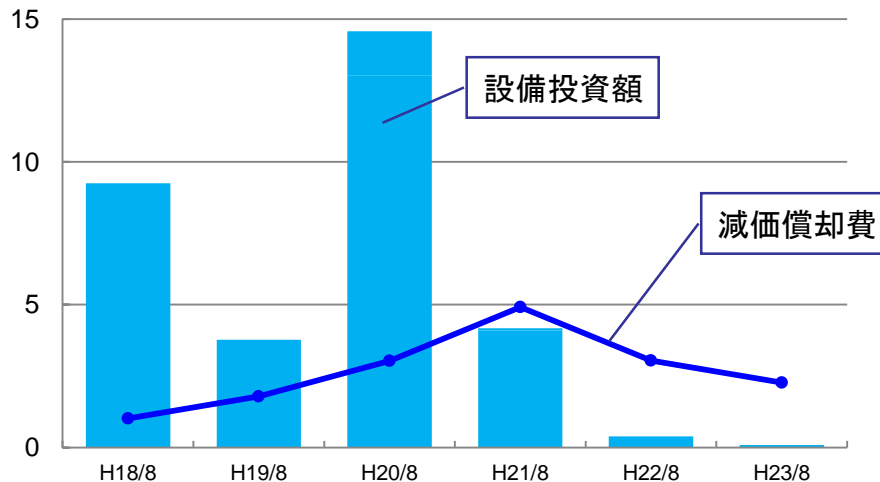
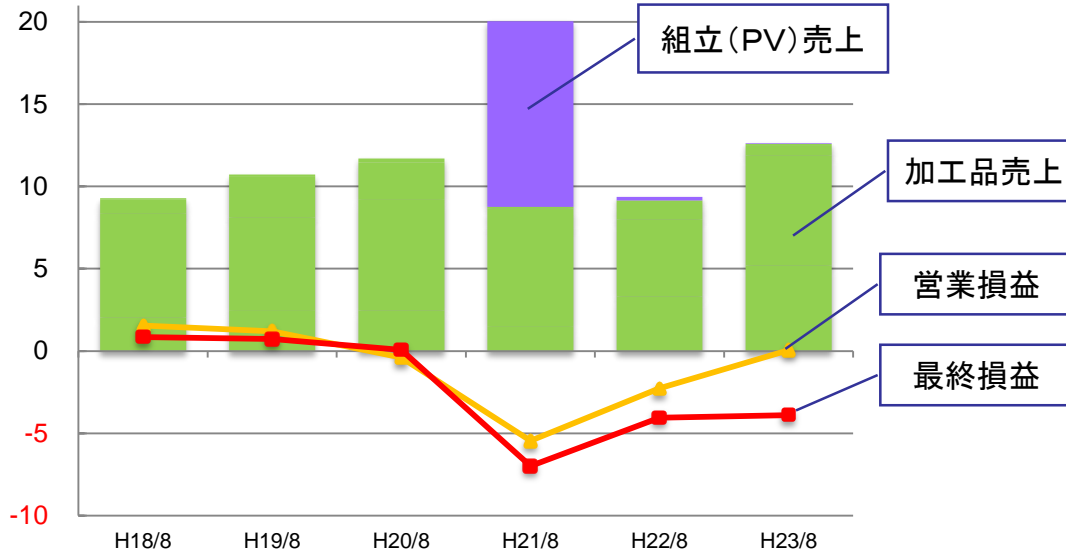
半導体強化

(成長ドライバーの変遷)

Ⅱ-2. 従来計画の総括

事業再生ADR手続

(単位: 億円)



✓平成18年以降、増大する液晶分野と、急成長中の太陽電池分野(PV分野)に向け累計約30億円の設備投資を断行。結果、減価償却費は年間5億円に増加など固定費も急増

✓そのような状況下でリーマンショックが発生し、PV分野での受注は消失した上、他分野の受注も急減速

✓減損損失計上と円高による為替差損も発生し多額の最終損失続く

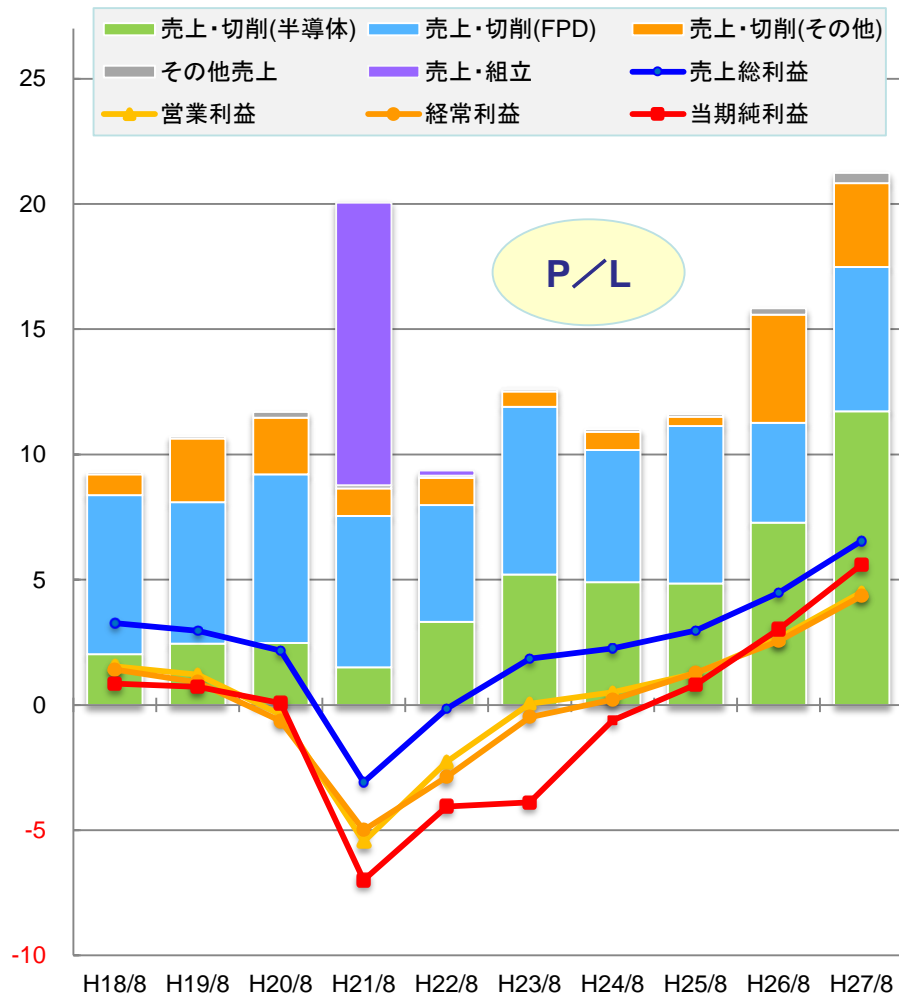
✓資金面では設備投資に関連し30億円近くに膨らんだ借入金の約定弁済が年間4億円を超えて資金ひっ迫

✓半導体分野への主力転換戦略が奏功し営業損益で黒字化が見える状況から、スポンサーに頼らず独自再建を図るため、メインバンクを始め取引金融機関各行へ事業再生ADR手続による金融支援を要請

Ⅱ-2. 従来計画の総括

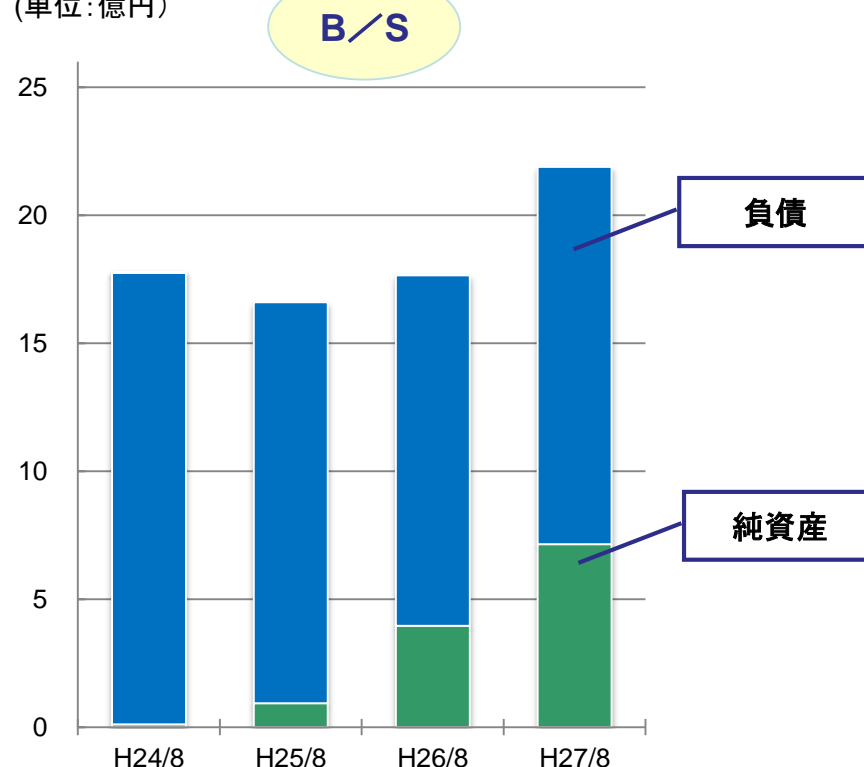
事業再生ADR手続による事業再生計画の終結

(単位: 億円)



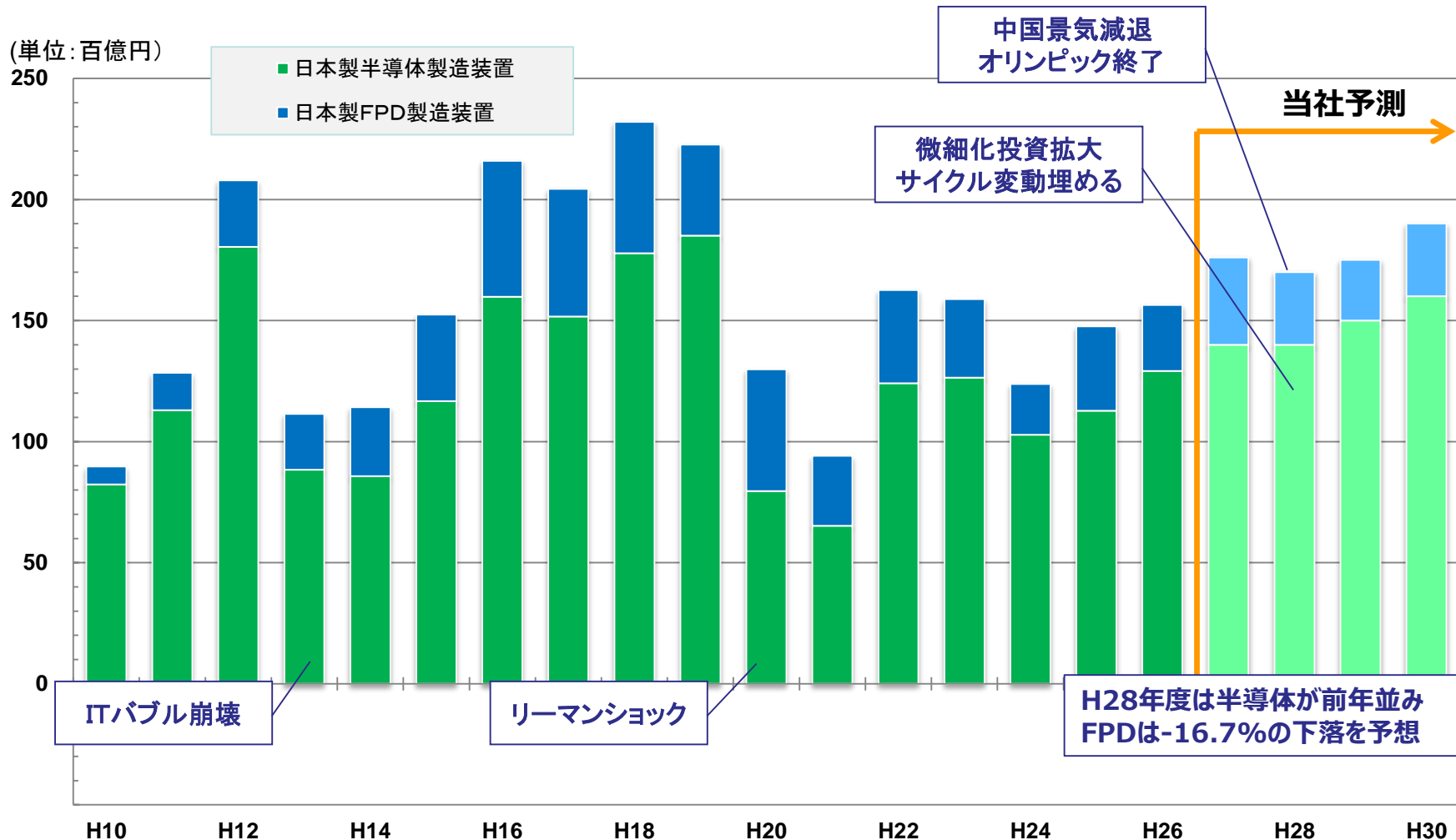
- ✓ 事業再生ADR手続以降急速に業績回復
- ✓ H27/8期には事業再生計画を前倒して終結
- ✓ 債務のリファイナンスおよび優先株の取得消却完了

(単位: 億円)



Ⅱ-3.市場環境分析

市場環境



(年度表記：一般的な3月期決算の年度採用)

※本予想は当社独自の予想です

中期的な販売分野別の環境と方針

半導体分野

- ◆ 微細化投資が本格化し景気サイクルの引き波打ち消す
- ◆ 特にエッチング、洗浄、ALD※等の工程は成長見込
- ◆ 洗浄へ参入狙い、エッチングでは試作強化で拡大狙う

FPD分野

- ◆ 中国向け不透明も、変動的に需要拡大 インドも開始
- ◆ H28年に減速シナリオでも中長期的には8K等で需要拡大
- ◆ 協力企業拡大で需要変動に対応

その他分野

- ◆ スマートフォン向けの需要は継続 ロボットで新市場
- ◆ 従来顧客では新型受注活動 自動車やロボットの分野狙う
- ◆ 生産余力の効率的活用と協力企業の拡大図る

※ALD（原子層成膜：熱処理成膜装置）

新中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の目標

新中期事業計画 Evolution2018

数値目標

連結売上40億円 営業益10億円

株主還元

配当性向35%以上（順次向上）

全般

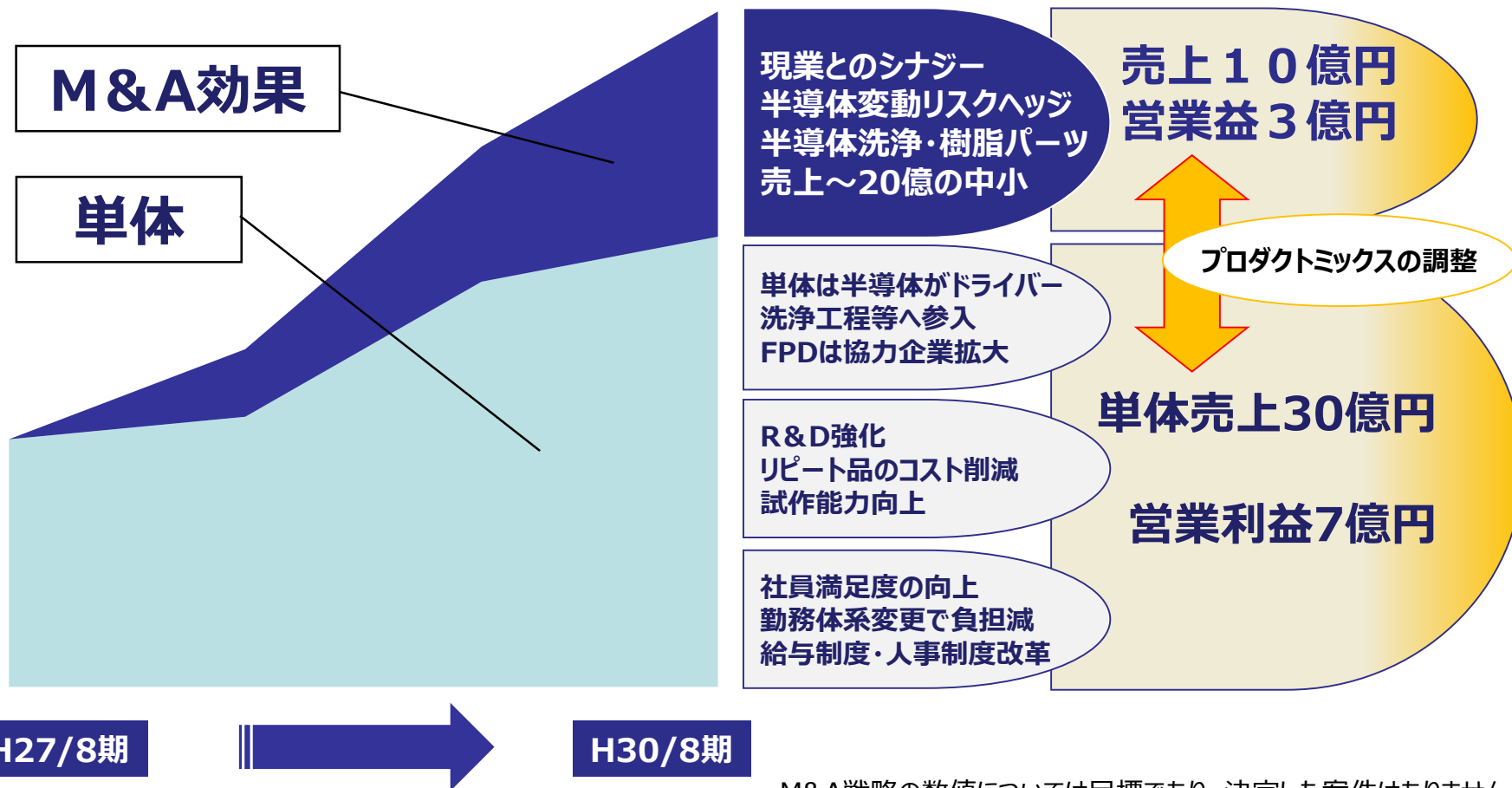
期間中に東証一部への市場変更※

※東証二部経由も想定

新中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の戦略

戦略

M&A方針と従来事業のブラッシュUP



M&A戦略の数値については目標であり、決定した案件はありません。

新中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の戦略

M&A

M&Aに関する方針等

事業分野	目的	概要
従来分野	半導体洗浄工程の受注 従来分野生産力の獲得 新規顧客獲得	非上場会社中心 小規模先は営業譲受
新分野	半導体・FPDのリスクヘッジ 新技術の獲得 人材の獲得	非上場会社中心 管理スキーム構築

M&A戦略の概要等については目標であり、決定した案件はありません。

新中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の戦略

R&D

従来事業のブラッシュUPと新規事業

事業分野	目的	概要
従来分野	半導体消耗品のコストダウン 従来生産性の継続的改善 ブレークスルー的技術開発	R&Dグループ強化 R&D予算化
新分野	作業補助・介護ロボット 災害対応ロボット	大学との共同研究 費用負担・製造分担

R & Dの目的と概要は目標であり、決定した案件はありません。

私達は新しい中期事業計画に取り組み、更に技術で社会貢献できる企業を目指します。

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先
株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



Company Profile

企業情報

進化する技術で未来を拓く

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)
設立	昭和63年10月
資本金	1億3585万円 (平成27年8月31日現在)
役員	代表取締役社長 前田 俊一 専務取締役 山元 弘 監査役 兒島 吉二 取締役 海崎 功太 監査役 寺畑 幸雄 取締役 藤山 敏久 監査役 梶 智和
従業員数	117名 うち 臨時雇用者等43名 (平成27年8月31日現在)
所在地	本社 〒899-0401 鹿兒島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立 ・精密機械部品の設計および製作 ・溶接部品の設計製造 ・運送業務
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術は究極を目指し 2.競争と協調を尊び 3.技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>

大株主 (普通株式)	前田 俊一	928,700株
	株式会社マルマエ (自己株)	109,447株
	前田 美佐子	84,000株
	川本 嘉世子	41,200株
	マルマエ共栄会	35,900株
	日本証券金融株式会社	32,600株
	前田 良子	30,000株
	五十嵐 光栄	27,900株
	川口 直信	26,100株
	楽天証券株式会社	15,500株
敬称略 平成27年8月31日現在		

進化する技術で未来を拓く

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務（元社長、元相談役）が個人で創業
昭和63年10月	マルマエ工業有限会社（現当社）設立（出資金2,000千円）
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D（現当社事業）を前田俊一（現代表取締役）が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社が引継いでR&D事業部を設置
平成13年4月	株式会社マルマエに商号および組織変更（資本金10,000千円）
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町（現出水市）に新本社工場竣工し本店移転
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定（証券コード6264）
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本県菊池郡大津町の熊本事業所が稼働開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年4月	埼玉県朝霞市の関東事業所が稼働開始
平成20年5月	熊本事業所組立工場竣工
平成20年9月	熊本事業所加工工場増設
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立
平成27年1月	事業再生ADR手続による事業再生計画の終結

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月の記載を省略しております。